

## 新年の風景と元旦を考える (2014.2.7)

輝かしい新年、如何おすごしですか？

『こんにちわ』をご愛読の皆様、新年を迎えてから早くもひと月を過ぎましたが如何ですか？新たな決意、新たな計画等を実行しつつの毎日でしょうか？。

今年の“初日の出”を、寒風的那須高原でのジョギング中に観ました。

午前7時01分でした。

光をさっと浴びたとたんに思わず立ち止り、合掌しておりました。

毎日お会いしている馴染み深いお陽さまであるはずなのに、なぜこうも自然と合掌になってしまうのでしょうか？

年越しの酒の成せる業などとは言わないことにします。

一年に一度巡りくる『区切り』、或いは『再出発』等と考えるのが良いようですね。

この頃は、年賀状も大きく様変わりして、一枚一枚丁寧に認めていたものが、ワープロで作られ、声での挨拶が携帯電話で行われるようになり、更にはメールで、ネットで、そしてメールで申し込めば年賀状として届けてくれる会社まであるそうです。

様変わりは、進歩なのかもしれませんが、かなり心が通じないことになるようにも思われるのですが…。

この様にして360日余を一区切りとして繰り返すことは、生活のリズムとしては良い案配なのでしょうが、このごろ富みにこの360日余が短く感じるのは、自分が年齢を重ねたからなのでしょうが？

“光陰矢のごとし” は、実にうまい表現です。

例えば一年の長さは、年齢分の一に短縮するのだと言う人もいるようです。

時の刻み、まさに時刻は同じように刻まれているのですが……。

一年の計は元旦にありと申します。

元旦に考えようとしてもなかなか出来ませんでした。とっくに不惑の年に入ったはずですが、現実とは別物の様です。

思い直して、毎日を充実したものにしながら過ごして行こうと考えました。

平成26年1月

院長 清治 邦夫